

参考人からの聞き取りについて

(造林公社問題検証委員会第3回会議)

1. 参考人

宮城 定右衛門 氏 栗東市在住。金勝生産森林組合長。県認定指導林家。
滋賀県林業研究グループ連絡協議会会長

2. 参考人からの主な意見

① これまでの林業経営について

- 日本全国が戦後、山を守らなければならないということで、植林に全精力を注ぎ込むような施策だったのではないかと思う。
- 昭和50年中頃から木材が値下がりをし、平成になれば採算ベースが合わない状態になった。
- 昭和40、50年頃も先行き危ないという雰囲気はあったが、木の消費はあったし、売れていた。今ほど危機感は無かった。

② 公社経営について

- 公社の山はへき地にあるため、それだけコストがかかっている。
- あまり採算が合う山は少ないと思う。
- 個人の山では労力を計算していない。公社は人を雇い、人件費を払わなければならない。そうしないと出来なかった時代だっと思う。
- 公社の植林により、周辺の林業家が活性化し励みになった。琵琶湖が綺麗なのも公社のおかげと思っている。
- 獣害対策のテープ巻きは、公社が最も早く取り組まれ、それが一般林業家に伝わり、非常に感謝している。

③ 今後の公社経営について

- 公社は、奥地に植林をされたが、大変な作業だったと思う。今では立派な山になっている。それを借金のつじつま合わせに伐るのは非常にもったいない。あまり経済的なことに先走って過ちがないようお願いしたい。
- 列状伐採で伐って広葉樹に変わるかどうか疑問である。
- 細かく作業道を付け、高性能機械で伐採をやらないと採算が合わないと思う。作業道から20m程度なら採算ベースに合うと思う。
- 長伐期に移行し、水源林として残し、採算ベースに合う時になって伐るというのが理想かと思う。

④ 今後の施策について

- 現在、CO₂排出権の売買の話があり検討をしている。公社や県も下流府県にそういう話を持ちかけて山に還元してもらえれば、周辺の林業家にも張り合いが出てくる。
- 滋賀県と三重県の木材価格を比較すると全然違う。三重県には大きな木材販売の施設があり、そういう施設の基盤整備を早急にして欲しい。